

外国語科学習指導案

単元名「Unit4 Let's see the world!」〔学指要領：領(1)イ、(3)イ 知工(7)d, e, (イ)b, c 思ア〕

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時 〇〇室

〇〇立〇〇小学校 6年〇組 〇名 指導者 〇〇 〇〇

A L T 〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> Where do you want to go? I want to go to ~. Let's go to~. You(We) can ~. や関連する語句を正しく聞き取ったり、それらを用いてやり取りしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現の使用場面を理解し、対話の内容を正しく聞き取り、使用できる児童が多い。苦手意識のある児童もチャンツや対話を繰り返す中で、聞こえた表現を何度も発音し、表現に慣れようと努めている。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 世界の様々な国について詳しく知るために、自分の行きたい国の情報やそこのできることを、友達や自分の考え等を聞き取ったり、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いを知るために、宝物を紹介する活動では、相手が伝えたいことを聞き取って反応したり、伝える目的を意識し、適切な表現を用いて自分の思いを伝えたりすることができた。一方で、既習表現を自ら想起して表現することが難しい児童もいる。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 世界の様々な国について詳しく知るために、自分の行きたい国の情報やそこのできることを、友達や自分の考え等を聞き取るうとしていたり、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしていたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝える目的を意識して、伝える情報や自分の気持ち、考えを工夫して表現しようとする児童が多い。一方で、英語で対話することに苦手意識があり、自信が持てない児童もいる。

2 評価規準 聞 : 聞くこと や : 話すこと (やり取り)

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○Where do you want to go? I want to go to ~. Let's go to~. You(We) can~. について理解している。 聞 や ○友達が行きたい国の情報、そこのできることを、友達の考え等を聞き取る技能を身に付けている。 聞 ○自分や友達が行きたい国の情報、そこのできることを、自分や友達の考え等について、Where do you want to go? I want to go to ~. Let's go to~. You(We) can~. 等を用いて伝え合う技能を身に付けている。 や
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の様々な国について詳しく知るために、友達が行きたい国の情報やそこのできることを、友達の考え等を聞き取っている。 聞 ○世界の様々な国について詳しく知るために、自分や友達が行きたい国の情報やそこのできることを、自分や友達の考え等を伝え合っている。 や
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の様々な国について詳しく知るために、友達が行きたい国の情報やそこのできることを、友達の考え等を聞き取るうとしている。 聞 ○世界の様々な国について詳しく知るために、自分や友達が行きたい国の情報やそこのできることを、自分や友達の考え等を伝え合おうとしている。 や

3 指導及び評価の計画 ※別紙参照

4 言語活動の価値

前単元末の言語活動で、自分の身の回りにあるものと世界とのつながりを伝えた高校生から「行ってみたい国はあるか」との質問を基に、本単元では、世界の国について詳しく知るために、行きたい国について紹介し合う言語活動を設定した。本言語活動は、相手意識を持って、自分が行きたい国について紹介し合うやり取りをすることで、世界の国の情報を聞き取る力や、国についての情報や自分の考えを伝え合う力の育成につながる。Where do you want to go? やI want to go to ~. We can~. 等を用いて繰り返しやり取りすることで表現の定着を図ることができたり、I like ~. ~is a nice country. 等の既習表現を用いることで国の情報や行きたい理由等を詳しく表現することができたりする。前単元の学習との関連を世界の国について知りたい気持ちを高めるとともに、さまざまな相手とやり取りしようとする態度を育むことにつながり、やり取りを繰り返すことで伝える内容が充実するとともに表現に慣れ、自信を持つことができるようになる。

II 本時の学習 (5/8)

1 ねらい 友達やJTE、ALT と行きたい国の情報やそこでできること、自分の考え等についてやり取りすることを通して、伝える内容や表現を検討し、既習表現を用いて伝え合うことができるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童の意識 [S]</p>	<p>○指導上の留意点 ◆評価項目 (観点)</p>
<p>1 あいさつ・帯活動 (5分) 2 JTE と ALT の対話を聞き、本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <p><めあて>高校生との交流に向け、行きたい国について相手に伝わるよりよい紹介ができるようになる。</p> <p>S : 私が行きたい国について、皆に分かってもらえる紹介になっているかな。スラスラ言えるようになってきてはいるけれど、他にもできていないところがあるかもしれない。</p>	<p>○本時の学習に取り組む必要感を持つことができるように、「自分が行きたい国のことを相手に知ってもらう」「自分も世界の国のことを知る」というやり取りの目的を確認し、現時点での自身の紹介の進捗状況を問いかける。</p> <p>○本時の学習の見通しを持ち、よりよくしたい点を見付けることができるように、相手に伝わる紹介にするために大切なことを問いかけるとともに、使う英語、伝える内容、伝える態度、やり取りの際の反応や質問、スムーズさの5つの視点を提示する。</p>
<p>3 紹介カードを用いて、友達や教師、ALT と行きたい国の情報やそこでできること、自分の考え等についてやり取りする。(30分)</p> <p>S : 行きたい国とそこでできることはグループの友達には伝わったみたい。自分と同じ国のことを紹介している友達は、どんなことを伝えているのかな。先生にも紹介してみたいな。</p> <p>S : 友達がエアーズロックについて、It is very big. と言っていたな。先生から質問されたエッフェル塔のことをもう少し調べた方がいいな。</p> <p>S : 質問されることが多いから、伝える内容をもう一度考えてみよう。友達の紹介を聞くだけになっているから、反応もできるようにになりたいな。</p> <p>S : 友達は、動画を参考に練習するみたいだ。友達に伝える前に、先生の見本を一度聞いてみよう。</p> <p>S : 様子や自分の考えを伝えたら、とても分かりやすいと言ってくれた。もっと自然な会話みたいにできたらいいな。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A : Where do you want to go? B : I want to go to France. A : Oh, you want to go to France. B : Yes. We can eat delicious food. A : What food? B : We can eat croissants. I like croissants. A : Me, too. B : We can see the Eiffel Tower. It's beautiful. A : I want to go to France! B : Let's go to France!</p> </div>	<p>○必要に応じて行きたい国の情報を得られるように、世界の地図、本、学習者用端末を用意しておく。</p> <p>○他者と比べてよりよい内容や表現を検討できるように、グループの友達とやり取りしたり、他の友達やJTE、ALT とやり取りしたりする機会を設定する。</p> <p>○伝える内容をさらに詳しく考えられるように、児童の発話を称賛するとともに、既習の Where is ~? や Is it ~? Do you ~? を使って場所や様子、自身の考え等について質問する。</p> <p>○正確な英語で伝えられるように、want と went の混同、You can pizza. のような語の欠落等、児童の発話状況に応じて口頭練習の機会を設け、板書する。</p> <p>○中間評価の場面で、友達の考えを参考に自身の解決方法を決められるように、よりよくしたい点の内容や解決の方法を問いかけたり、各自のよりよくしたい点をモニターに提示したりする。</p> <p>○改善した内容や表現の適切さを実感できるように、個別練習や、友達やJTE、ALT とやり取りする機会を再度設定する。</p> <p>◆評価項目 (思○・態○) 友達や JTE、ALT と行きたい国についてやり取りする場面において、「行きたい国の情報やその国でできること、自分の考え等を、既習表現を用いて伝え合っているか (伝え合おうとしているか)」を評価する。</p>
<p>4 本時の学習の振り返りをする。(5分)</p> <p><振り返り> S : 最初は友達と話した時に感想が言えなかったり、先生からの質問に答えられなかったりした。紹介カードに伝えることを詳しくしたり、言い方を調べて練習したりしてからALTの先生とやり取りしたら、Oh, I see. と分かってくれて嬉しかった。次回は、先生や友達と言い方等をアドバイスし合って、高校生ともやり取りできるようになりたい。</p>	<p>○次時の学習の見通しを持つことができるように、解決方法を見付けている児童の振り返りを紹介するとともに、本時の取組を称賛する。</p>

(別紙)

3 指導及び評価の計画 (全8時間: 本時第5時)

※指導に生かす評価○ 評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	・前単元での高校生との交流を振り返り、単元の課題を設定する。 単元の課題 世界のたくさんの国について知るために、自分が行きたい国の情報やそこ でできることをミニ万博で伝えよう。 ・世界の国名や行きたい国について尋ねたり、答えたりする表現に慣れる。	○		
2	・行きたい国の紹介カードを作り、友達とお互いに尋ねたり、答えたり、提案したりする。	○		
3	・友達と行きたい国について尋ねたり、答えたり、そこでできることを伝え合ったりする。		○	○
4	・教科書の登場人物や JTE、ALT の行きたい国についての紹介を聞いたり、友達とのやり取りを動画で撮影し、視聴したりする。(動画撮影)	聞 ●	聞 ●	聞 ●
5	・友達や JTE、ALT と行きたい国の情報やそこでできること、自分の考え等についてやり取りする。		や ○	や ○
6	・自分の修正点について友達と助言し合い、各自で練習したり、友達や先生とやり取りしたりする。		や ○	や ○
7	・高校生と行きたい国についてやり取りしたり、高校生の発表を聞いたりする。	や ●	や ●	や ●
8	・自分が行きたい国について紹介カードにまとめ、単元の学習を振り返る。	○		

※○は、単位時間のねらいに即して、児童の活動状況を見取る際の重点を示している。「ねらいに即して指導に生かす評価を行う」と記載することも考えられる（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」参照）。